

# 図書館だより3月 上水高校図書館



## 今月の司書のおすすめ本

### 『十五の夏 上・下』 佐藤優

佐藤優氏の実験の経験を書いています。45年前の社会主義国に高校1年生という若さでチェコスロバキア、ポーランド、ハンガリー、ルーマニアを経てソ連までひとり旅をします。15歳とは思えない思い切りの良い行動力と出会う人々への対応に驚きます。最終章での教師との話、親友との話にも注目です。この旅の経験が佐藤氏の人生に大きな影響を与えたことがわかります。さあ、一緒に旅に出てみましょう。

### 『サード・キッチン』 白尾悠

高校卒業後にアメリカの大学に留学した尚美は、言葉の壁と差別で周囲から孤立しています。そんな中、学生が運営する食堂「サード・キッチン」(マイノリティ学生のためのセーフスペース)に出会い、居場所を見つけたような気になりますが、そこで尚美は人種、格差、ジェンダー、ステレオタイプなど差別というものに対して自分が今までいかに無知で無関心、無自覚だったかに気が付きます。尚美の成長物語であると同時に国際理解というものに大いに役立つ一冊です。ぜひ尚美と一緒に考えながら読んでみてください。

### 『考えごとしたい旅 フィンランドとシナモンロール』 益田ミリ

フィンランドに行きたくなります。ひとり旅です。カフェのシナモンロールの食べ比べをします。マリメッコの工場でセールのポーチをゲットして、社員食堂でランチをいただきます。対岸の国エストニアに船に乗って2時間くらいで着きます。世界遺産の童話の舞台になりそうな街で、ちょっと迷子になりましょう。北欧は物価が高いので(税金が高いから)夕飯はデパ地下のお惣菜を買ってホテルで食べるのもいいかも。夢は果てしなく広がります。行きたいですねー

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

3月の図書館  
開館カレンダー  
8:30~16:40

3月になりました。令和2年度最後の図書館だよりです。コロナ禍で休校のまま始まった今年度、密を避けるために、図書館でHRが行われることもありましたが、そのおかげで図書館に親しみを感じてくれたのでしょうか、気軽に立ち寄って本を眺めたり、借りていく生徒が増えた気がします。

まだまだアクリル板と消毒作業は欠かせず、椅子の半分は奥に積まれたままだし、風通しが良すぎて少し寒いですが、元の図書館の姿に戻る日が待ち遠しいです。

### ベストリーダー

1位	1-D	男子	52冊
2位	1-B	女子	50冊
3位	1-F	女子	27冊
4位	2-B	女子	26冊
5位	1-D	女子	20冊
6位	1-D	女子	16冊
	3-F	女子	16冊
8位	1-D	女子	15冊
	1-F	女子	15冊
10位	1-D	女子	13冊
	2-A	女子	13冊

(2020・4月~2021・2月)

### ベストリーディング

- 「下妻物語」 嶽本野ばら
  - 「君と漕ぐ」 武田綾乃
  - 「かがみの孤城」 辻村深月
    - 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」 プレディ・みかこ
  - 「流浪の月」 凧良ゆう
  - 「君の臍臓をたべたい」 住野よる
    - 「ハイキュー!! ショーセツパン!!」 古館春一
    - 「苦汁 100%」 尾崎世界観
    - 「ジブリアニメで哲学する」 小川仁志
- \*その他、進路系の過去問や面接対策の本は除外しました。  
\*1位の「下妻物語」は、たまたま汚損が見つかり、買い直したものが、新着図書として並んだら人気になってしまいました。面白い本は何年たっても面白いんですね。

\*17期生 健闘しております!

## 今月の図書館廊下ガラス展示。。。『あれから10年』

東日本を襲った大震災から、今月で10年が経ちます。

被災者の方々は、この10年という年月をどのように感じているのでしょうか。

当事者ではなくとも、知っておくこと、忘れずにいることはとても大切です。図書館には震災に関する本がたくさんあります。今月は、その一部を廊下ガラスケースの中に展示しました。

### また次の春へ 重松清

7話の短編集です。高校入試が終わって春休みに釣りに行ったとき、合格したことも知らず志望校に通うことができなかった友達。自分の生まれ育った町の土が汚染され、帰れなくなってしまった人。両親が行方不明になり、見つからないまま前に進めずにいる人……。

『記念日』という話の中で、被災地にカレンダーを送った小学校が、1月~3月までのページを現地の人は辛いだろうからと破って4月からの未来だけを載せたものを送りますが、被災地からはそれまでの生活を無かったことにはできないから全部の月が揃っているものが欲しいと言われる話がとても印象的です。震災が起こる前にも後にも人生はあるしこれからも続いていく。そんなことを改めて考えさせる一冊です。